

平成 28 年度 第 3 回 倫理委員会審議

申請者	腎臓内科医師	松本 圭一郎
受付番号	16-21	
課題名	当院における高齢者ネフローゼ症候群の実態調査	
研究の概要	<p>高齢者のネフローゼ症候群に対する免疫抑制療法は、2014年に刊行された診療ガイドラインで「副作用の発現に十分に注意して使用することを推奨する」とされている。高齢者では腎生検が施行できず、原疾患不明のまま治療に進まざるを得ない症例も多く、その他の臨床所見から鑑別を行って治療を行うことも実臨床ではよく経験されることである。</p> <p>本研究では、腎生検にて病理診断を得ることができなかった高齢者のネフローゼ症候群に対し、その他の臨床所見から鑑別を行い、施行する免疫抑制療法が真に必須の治療方法で、予後や治療方針に大きく関与、貢献しているかを調査し、より安全で必要に応じた治療適応を確立していくことを目的とする。</p>	
判定	承認	計画どおり承認とする。

申請者	麻酔科部長	香月 亮
受付番号	16-22	
課題名	青少年における「疼痛又は運動障害を中心とする多様な症状」の受療状況に関する全国疫学調査	
研究の概要	<p>「子宮頸がんワクチンの有効性と安全性の評価に関する疫学研究」の一部。ワクチン接種群で上記症状を呈する患者と、接種をしていなくても上記症状を呈する患者がどれくらいいるのかを調べる研究。</p>	
判定	迅速審査承認	申請のとおり承認とする。

申請者	循環器内科部長	室屋 隆浩
受付番号	15-11	
課題名	冠動脈狭窄病変の機能的評価における拡張期 FFR の診断に関する研究	
研究の概要	<p>主要冠動脈一枝狭窄病変において、心筋シンチグラフィに対する拡張期 FFR (d-FFR) の正診率を、従来の全心周期 FFR (FFR) と比較することを目的とする。</p>	
判定	迅速審査承認	H27.9.24 付承認課題。研究計画書の変更のため再審議の結果承認となった。

申請者	診療放射線技師	上山 史貴
受付番号	16-23	
課題名	平山病における頸椎前屈位 MRI 画像の画質評価	
研究の概要	<p>平山病の MRI 画像所見として頸椎前屈による硬膜管の前方移動・硬膜管の狭小化・硬膜外脈口叢の拡張等があり、頸椎前屈位での MRI 撮像が求められる。しかし、当院で頸椎を撮像している頭頸部用コイルでは構造上前屈は不可能であり、脊椎用コイルでは撮像可能であるが前屈によりコイル表面と患部の距離が開くことで信号雑音比が低下して画質が悪くなることが考えられる。そこで今回、脊椎用コイル表面からの距離と信号雑音比の関係を測定し、臨床画像の視覚評価を行うことで、脊椎用コイルからどの程度まで離れた画像が臨床画像として適しているかを検討する。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	診療放射線技師	中垣 明浩
受付番号	16-24	
課題名	頸椎正面撮影における補助具の検討	
研究の概要	頸椎正面撮影は、当院の整形領域の中で再撮率が高い撮影法の1つである。主な原因として、技術の差があることで再撮やフォローアップ時の再現性の低下が挙げられる。また、これにより被曝線量の増加や体位の長時間保持による患者の負担が増加することとなる。そこで、頸椎正面撮影における適切な補助具を作成し、患者の負担及び再撮率の低減、再現性の向上を目指す。	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	西3病棟助産師	江崎 美津子
受付番号	16-26	
課題名	助産ケアへの満足度のアンケート	
研究の概要	当院で出産された方が、助産ケアに対してどの程度満足されているのかアンケート調査する。	
判定	迅速審査承認	申請のとおり承認とする。

申請者	東1病棟看護師	淵瀬 ひかる
受付番号	16-27	
課題名	看護師のリハビリに対する意識の変化 ～リハビリと病棟のADLの統一を行って～	
研究の概要	急性期を含む一般病棟では、手術前後の患者、重症患者も多く、処置やケアに費やす時間も多いため、リハビリへの関わりが困難であることが推測される。入院患者のリハビリの状況を病棟の看護師が確認をし、リハビリ室でのADLと病棟内でのADLの差をなくすことができるようスタッフ（病棟看護師・理学療法士）へ関わることで看護師のリハビリへの意識が上昇・変化するのではないかと考え、取り組みの前後でアンケート調査を実施し、取り組みの効果を検討する。	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	東2病棟看護師	大野 暁子・梅木 沙帆
受付番号	16-28	
課題名	急性期病棟における脳卒中高齢患者のせん妄出現に関する看護師の意識調査	
研究の概要	当病棟において、看護師によるせん妄の明確な判断基準はなく、個々のアセスメントにより対応している状況である。術後せん妄患者の看護経験が、直感の有無にかかわらずせん妄を予知し、アセスメントを推し進めていく能力を醸成していくプロセスが推察されるとの報告もあり、これらのことより、看護師の経験年数や対応の違いにより、患者のせん妄が遷延したり、症状の増悪につながる可能性があると考えた。 そこで、看護師がどのようにせん妄とアセスメントし、どのような対策をしているのかの現状を明らかにすることを目的とする。	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	東3病棟	石井 杏奈・森下 絵里香
受付番号	16-29	
課題名	混合病棟における看護師の転倒・転落の要因およびその事故防止策に関する認識	
研究の概要	当病棟では、転倒・転落カンファレンスや転倒・転落アセスメントシートの評価を行い、転倒・転落予防を行っているにも関わらず、転倒・転落に関するインシデントが昨年27件報告されている。当該診療科における転倒・転落の	

		要因や介入方法に対する意識調査を行い、病棟の改善点を見出し、課題や対策を明らかにしていく。
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	東 4 病棟	中川 春泉
受付番号	16-30	
課題名	深部静脈血栓症に対して、弾性ストッキングを着用した状態での足関節底背屈運動は有効な予防法であるか ～大腿静脈血流速度・血流量の増加率の検証～	
研究の概要	<p>深部静脈血栓症(DVT)の理学的予防法として、自動・他動運動、下腿マッサージ、CPMの使用などが知られており、その中でも弾性ストッキングを着用した状態での足関節自動底背屈運動がDVT予防に有効であることが近年の研究により明らかになっている。</p> <p>臥床傾向の長い患者や周術期の患者は、必要時に弾性ストッキングを着用したりフットポンプを装着したりしているが、弾性ストッキング着用患者に対して運動療法が定期的・継続的に実践出来ていない。そこには看護師のDVT予防に対する知識や意識の差、また、有効性を十分把握できていない状況等が関与しているのではないかと考える。そこで、高齢者や循環器疾患患者において弾性ストッキングを着用した状態での、足関節底背屈運動が下肢静脈血流速度・血流量にどのように影響を与えるかを検証する。また、その結果からDVTの予防的介入の一つとして弾性ストッキング着用下での足関節底背屈運動の定着化へつなげることを目的とする。</p>	
判定	承認	計画どおり承認とする。

申請者	西 1 病棟	福満 真由美
受付番号	16-31	
課題名	退院支援・退院調整における病棟看護師の実態調査	
研究の概要	<p>入院患者や家族に対し、様々な関連職種が退院調整に関わっているが、病棟看護師が十分に関わっておらず、地域連携室担当看護師やソーシャルワーカーといった他職種に任せきりとなるケースも多い。その原因として、看護師の知識や抱える思いの違い、その他の理由から患者や家族、他職種との関わりに差が生じているのではないかと考えた。そこで、退院支援・退院調整における看護師の実態を調査し、現状を把握することとした。退院支援・退院調整において必要とされる項目の中で、病棟看護師が必要と考えている項目、実際に実施している項目、どのような項目に対し困難さを感じているのか、またその理由について調査・分析し、今後の課題について見出すことを目的とする。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	西 3 病棟	緒方 梨恵
受付番号	16-32	
課題名	点滴・採血の処置を受ける小児へのプレパレーションに対するスタッフの意識の現状と課題	
研究の概要	<p>小児看護の場において、プレパレーションを実施することによって子供の「知る権利」を守っていく必要がある。小児看護グループ活動の一環として、プレパレーションの取り組みに力を入れてきたが、なかなか定着出来ていない。先行研究によると、プレパレーションの阻害要因として【実施に対する自信のなさ】【ネガティブな職場環境】などが要素にあがることがわかっており、当病棟スタッフにおいても、これらの要素とプレパレーションの定着に関連性があるのかを明らかにし、阻害要因の究明、改善策の検討を行うことで、看護の質の向上を図っていきたい。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	西 4 病棟看護師	大安 正俊
受付番号	16-33	
課題名	終末期がん患者へ継続した口腔ケアでの効果～OAG と GOHAI を用いた評価の変化と関係性について～	
研究の概要	<p>消化器がんの終末期と診断された患者に対して、加湿、ブラッシング、保湿の 3 点に重点を置き、独自に作成した口腔ケア方法を継続することで口腔内環境の変化をがん患者の口腔内評価で用いられる口腔アセスメントガイドを用いて明らかにしていきたい。またその上で、口腔ケアにより口腔内環境が変化することで、患者の口腔に関連した QOL の維持・向上との関連性を、口腔関連 QOL の 1 つである General Oral Health Assessment Index 日本語版を用いて明らかにしていきたい。</p>	
判定	承認	計画どおり承認とする。

申請者	5 病棟看護師	森 佑太郎
受付番号	16-34	
課題名	インフォームドコンセントにおける課題点とその対策 ～マニュアル作成前後の看護師の対応や気持ちの変化について～	
研究の概要	<p>当病棟は呼吸器疾患をもつ患者の急性期から終末期の治療や看護を中心に行っている。また、がん疾患のみでなく慢性呼吸器疾患を有する患者の治療や看護も行っている。呼吸器疾患は、症状が急速に変化し悪化する事例も多いことから、スタッフ間で十分な共有と看護を行う必要がある。しかし、看護師によりインフォームドコンセント(以下、IC)後の関わり方は様々であることから、IC 後の患者・家族の思いに向き合うことが出来きていないこともあった。看護師の関わりとして「声掛けの仕方」や「スタッフ間の連携」について課題が挙げられたため、今回マニュアルを作成・使用することで、看護師が効果的に関わる事が出来たのかを明らかにする。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	手術室看護師	木寺 英代
受付番号	16-35	
課題名	パークベンチ位における褥瘡予防学習会の効果－体圧分布に着目した除圧－	
研究の概要	<p>先行研究で手術室経験 5 年未満の看護師は、特殊体位における除圧具の選択・除圧方法について自信がないとの結果が得られていた。要因として特殊体位をとる手術頻度が少ないため未経験のスタッフが多いこと、特殊体位の褥瘡好発部位についての文献が少ないことなどが挙げられ、経験の差から看護師間で技術の差が生じており、圧迫部位の可視化が必要だと考えた。</p> <p>そこで、今回は特殊体位の中でも緊急手術に必要なパークベンチ位について、除圧具の違いによる体圧分布を測定する事で効果的な除圧方法を含めた体位固定マニュアルを作成し、手術室看護師全員が同レベルで除圧方法を実践できるようになることを目的に学習会を実施し、その効果を明らかにする。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	外来看護師	峰 慎也
受付番号	16-36	
課題名	救急外来から緊急手術となる患者の術前口腔ケアの実施	
研究の概要	<p>当院救急外来では煩雑な業務、マンパワー不足もあり、緊急手術前口腔ケアを実施出来ていない。口腔内が汚染されている状態で挿管をすることは、口腔内の細菌・異物を気管・肺へ押し込むことになり、誤嚥性肺炎の危険性が高くなる。緊急手術前には必要な検査・処置があり、口腔ケアの優先度は高いとは言えない。今回、簡易に、短時間で痰や残渣を取り除ける方法を 3 つ選抜した。早急な対処が要求される中で簡易に実施できる方法であれば、緊急手術前</p>	

		でも看護師が負担を感じることなく口腔ケアを行うことができ、患者は清掃された状態で手術に挑むことが出来ると考え今回の研究に取り組む。
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	作業療法士	山崎 未紗
受付番号	16-37	
課題名	高次脳機能障害が ADL に及ぼす影響と転帰予測の関係性について	
研究の概要	入院後、早期に適切な転帰先の検討を行うことで、医療施設の分化に伴う急性期病院としての役割を果たすことが可能となり、地域連携の一助となると考えられる。そこで、転帰予測に関係すると考えられる高次脳機能障害が ADL に及ぼす影響を調査、検討し、リハビリテーション介入初期での転帰先の見極めの有用性を報告する。	
判定	承認	計画どおり承認とする。

申請者	理学療法士	山田 竜一郎
受付番号	16-38	
課題名	人工膝関節置換術後患者における術前の表在知覚と術後の膝関節可動域および身体機能との関連性	
研究の概要	人工膝関節置換術後の膝関節可動域制限は、膝関節構成体以外にも様々な要素が存在する。今回着目した表在知覚も術後の関節可動域獲得への阻害因子の一つと考えられる。また、表在知覚は身体機能の回復過程においても関与している可能性がある。本研究においてその関連性が明らかとなれば、今後のリハビリテーション診療における新たな指標となり得る。	
判定	承認	計画どおり承認とする。

申請者	東 2 病棟看護師	宮川 雅子
受付番号	16-39	
課題名	効果的な口腔ケア実践に向けた取り組み ～院内統一した口腔内評価シートの活用～	
研究の概要	近年、口腔ケアは誤嚥性肺炎予防のみならず、摂食機能向上や QOL 向上の観点から重要性が広く見直されている。患者の肺炎予防や看護師の口腔ケアの知識や技術の向上を目的に、平成 27 年 6 月から口腔ケアプロジェクトチームによる活動を開始した。平成 28 年院内統一の OAG(Oral Assessment Guide) を用いた口腔内評価シートを作成し、評価を行ったので効果を振り返る。	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。